令和3年度
創造調和
令和３年11月17日
半田市立半田中学校
第１２号
学　校　だ　よ　り

修学旅行を終えて
「思い出に残る最幸の修学旅行のために」

生徒が「本物の美しさ」を体験し、新たなものの見方や考え方を養うことができた修学旅行。それは、ＳＤＧｓの観点において精力的に取り組んでいる企業とともに、地球の未来のためにできることを考えた初の試みでした。

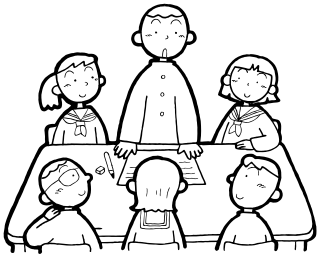
１１月９日（火）　京都「ＳＤＧｓ研修」

今まさに問題解決に本気で取り組んでいる大人から、社会問題のリアルな状況を学び、理想と現状とのギャップを自分たちで埋めるための方法を徹底的に考え抜きました。

生徒が目の当たりにした社会問題は、「日本の伝統産業」「新たなフェアトレード」「障がいとは何か」「これからの観光」「棄てられる食品」「新しい農業」「京都のお寺」の７テーマ。「事前学習→現場体験→ワークショップ」という展開で学びは広がり、生徒は社会問題に対して関心を高めただけでなく、「自分にも何かできる」といった気持ちで問題に対して主体的に考えていました。

私は、日本の伝統産業について考えるグループに同行しました。日本の伝統産業といえば、職人というイメージをもちますが、一方で後継者不足が問題視されています。

事前学習では、「(株) 和える」の中川さんから、「会社のロゴは、会社の顔。そのロゴからイメージするもの、感じ取ったものは会社の願いが込められている」という話があり、おもしろい会社の見方を教わりました。そして、身近な生活の中で、日本の伝統産業に触れる機会が少ないことから、「０歳からの伝統ブランド（ホンモノ）和える」という取組について話があり、なぜ０歳から伝統ブランドに触れさせるのか、深く考えることができました。



一見、伝統産業は高価なものだから、子どもが普段使いするものではないと考えてしまいがちですが、大人が伝統ブランドを大切に使っている姿を見て、子どもも大切に使おうとするし、何より直接触れることで、他とは違うよさを感じ取っている。日本の伝統や文化は人を優しくする力があり、優しい人が増えると社会がより美しくなるという考えがありました。

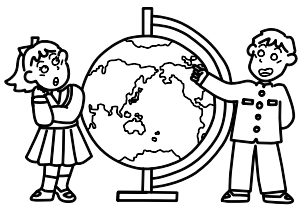
事前学習の後、伝統ブランドを売っている店に行きました。食器、玩具、衣類、器のお直しなど、直接触れてみて、手触りのよさを感じ取ることができました。

ワークショップでは、全員が会場を西陣織会館に移し、社会問題を解くカギを見つけようというミッションでグループ活動を行いました。私は、この問題解決のステップは、これから私たちがよりよく生きていくうえで、とても大切になる方法と思いました。

＜問題解決のステップ＞

ワークショップでのグループ活動では、以下のステップで話し合いを行いました。

① 社会問題が様々あることを知る。【現　状】
② その問題が何年か先にどうなっているとよいか。【理　想】
③ しかし、現状と理想には大きなギャップがある。【課　題】
④ この課題を解決するために何をすればよいだろうか。【解決策】



どのグループも、問題を自分ごとと捉え、真剣に話し合いに参加していました。話し合いのルールに、「何を言ってもよい」「人と発言は分ける」「自分ごととして考える」が設定されていたことが、より話し合いを活発化させました。私は、この様子を見て、現状を整理したうえで、先の理想を描くことにより、課題が明確になるのだと思いました。

最後に、ワークショップのまとめとして、「主体的に考えること、行動することで、一つ一つ社会の壁を乗り越えていくことができる。ぜひ、自分ごと力、課題設定力を磨いてほしい」という話がありました。

１１月１０日（水）　三重「スペイン村研修」

２日目は、宿泊地の長浜から賢島への長いバス移動となりました。北陸自動車道→名神高速道路→新名神高速道路→東名阪自動車道→伊勢自動車道と高速道路を乗り継ぎ、１３時ごろに到着しました。

スペイン村での行動は、学級の枠を越えたグループで活動しました。生徒のうれしそうな表情を至るところで見ることができました。感心したことは、マナーを考えた行動、ルールや時間を守った行動です。集団生活や集団行動の場面では、当たり前のことかもしれませんが、当たり前のことを当たり前にできることがすばらしいと思いました。

さらに感心したことは、ホテルでの生徒の所作です。１日目もそうでしたが、ホテルの内装や窓から見える景色、美しい料理は、その日の疲れを癒やし、心を豊かにしてくれました。まさに本物に触れた生徒の姿勢は、歩く姿にも美しさが感じられました。

１１月１１日（木）　三重「学級分散研修」

３日目は、学級ごとの分散研修でした。私は、鈴鹿サーキットに同行しました。３日目の疲れを全く感じさせないくらい、生徒たちは体験したいアトラクションを最後まで楽しんでいました。その中で、苦手なアトラクションでも友達が背中を押してくれたので、初めて挑戦したという生徒もいました。家を離れ、学校を離れて友達と過ごした３日間は、きっと本物の友情が育まれているような気がしました。生徒たちの友情に美しさを感じました。

コロナ禍の中でもできることを考え、青春を全力で楽しんだ生徒たちは、「最幸の修学旅行でした。ありがとうございました。」と、爽やかな笑顔でバスを降りていきました。